1 Wp- 6

地方独立住宅における和室の保有状況および起居様式について

○聖徳学園女短大　　新田　米子
あとりえのあ設計室　河内美代子

目的　地方の独立住宅においては依然として居住者の和室志向が高く、都市部と異なった平面志向をもつものと推察される。本研究では、地方の独立住宅における和室の保有状況、および起居様式について明らかにし、地域特性に適合した住宅平面のあり方を追究することを目的とする。

方法　岐阜県住宅供給公社の分譲住宅および同公社宅地分譲による戸建住宅の居住者（2団地、約280世帯）を対象に、アンケート留置自記法による調査を1994年12月上旬に実施した。調査票の有効回収数は151、回収率は81.2%であった。

結果　①和室を1室以上保有する住宅は全体の95.4%を占め、そのうち「2室」が37.1%、「3室以上」が41.1%と複数和室の保有率が高い。この和室保有率は、住宅供給主体、ライフステージによる影響が大きく、延床面積による差は小さい。②居間の和洋の別は、「洋室」が78.1%、「和室」が9.9%、「和洋両室」が9.3%となっているが、団らんの起居様式は、「イス座」が49.7%、「ユカ座」が24.5%、「イス＋ユカ座」が24.5%と洋室での「ユカ座」と「イス＋ユカ座」が多いことがわかる。その他の起居様式では、就寝様式が「ユカ座」が多く57.6%を占め、親しい客の接客では「イス座」が50.3%、改まった客の接客では「ユカ座」が62.3%を占めている。③自宅における冠婚葬祭の実施の有無は、「有り」が25.2%にとどまるが、和室を必要とする人の、その用途に「客の宿泊」(72.8%)について「冠婚葬祭」をあげる人(59.6%)が多いのが特徴である。以上の結果より、地方においては、中高年世代を中心に伝統的な生活様式を維持しようとする傾向が伺われ、このことが住宅志向にも反映されているといえよう。